



# 竹早

TAKAMURA 会報  
2003/No.14



## 篔会報 2003年(平成15年)14号

発行日 2003年5月17日  
発行 篔会  
東京府立第二高等女学校同窓会  
東京都立竹早高等学校同窓会  
〒112-0002  
東京都文京区小石川4-2-1  
東京都立竹早高等学校内  
編集 篔会 会報編集委員会  
印刷 株式会社博秀工芸  
東京都文京区湯島3-19-5  
03-3836-3680

会報編集委員  
委員長 宮田 雄幸 (12回生)  
委員 山廣 俊雄 (7回生)  
関 文隆 (10回生)  
角掛 隆 (10回生)  
黒瀬 忠生 (11回生)  
小杉 義信 (11回生)  
河村 恵子 (12回生)  
田中 烈 (12回生)  
市瀬 勝信 (13回生)  
遠藤 きみ (13回生)  
背戸 民恵 (13回生)  
浜野 輝夫 (13回生)  
村上千津子 (13回生)  
村瀬 共栄 (13回生)  
渡辺 哲也 (13回生)  
長谷川万里子 (14回生)  
山内 享 (14回生)  
渡辺 信博 (22回生)



## 特集 都立高校改革と竹早高校 ……2

|                 |                  |                   |
|-----------------|------------------|-------------------|
| 会長・校長挨拶……………1   | 竹早エコー……………11     | 総会・理事会の報告……………18  |
| 関西篔会・湘南篔会……………6 | 竹早会(竹早山荘)……………16 | 100周年事業報告……………19  |
| なつかしの先生……………8   | 訃報……………16        | ホームページ紹介……………20   |
| 学校の活動報告……………10  | 当世若者気質……………17    | 編集室から・編集後記……………21 |

東京府立第二高等女学校同窓会 東京都立竹早高等学校同窓会



日時

平成15年 6月29日(日)

受付開始 10:00~(11階ロビー)

総会 10:30~11:15

講演 11:15~12:15

休憩 12:15~12:30

懇親会 12:30~14:30

会場

KKR ホテル 東京

(国家公務員共済組合連合会 東京共済会館)

総会・講演会

11階「孔雀の間」

懇親会

10階「瑞宝の間」

会費

8,000円

(学生=52~54回生は2,000円)  
55回生は無料

■ご出席の方は、同封のハガキで6月2日(月)までにお申込みください。

■会費は、ご面倒をお掛けしますが、事前に同封の振込用紙で、お振り込み下さい。

講演

「NPOってなんですか」

—この指止まれるの市民パワー—

講師：星野昌子 簞会会長

(日本NPOセンター代表理事、敬愛大学国際学部教授、神奈川県人権センター理事長、日本国際ボランティアセンター特別顧問、トヨタ財団理事、外務省改革審議委員会委員、川口外相の私的諮問機関等、)

平成15年度

簞会総会

のご案内

懇親会 のイベント

「アンサンブルK」による  
箏とヴァイオリンの合奏

箏：佐藤(中津)和子さん(13回生Cルーム)  
及び 北條恵子さん  
ヴァイオリン：小宅栄子さん(芸大卒)

「KAUNA NUTS」(カウナナッツ)による  
ハワイアン・ジャズ・カントリーの演奏

豊田邦栄さん(13回生Fルーム)  
河野修三さん(13回生Bルーム)  
ほか3名。大学時代からのグループ。

幹事

■今回

高校13回生(昭和36年卒業)  
高校34回生(昭和57年卒業)  
高校54回生(平成14年卒業)

■次回

高校14回生(昭和37年卒業)  
高校35回生(昭和58年卒業)  
高校55回生(平成15年卒業)



交通案内

皇居の線につつまれた立地条件最高のホテル! 東京駅より車で5分。  
地下鉄竹橋駅3b出口に直結。

タクシー：東京駅(丸ノ内北口)より「KKRホテル東京」または「旧竹橋会館」または「気象庁向い」とお告げください。

地下鉄：東西線「竹橋駅」3b出口直結、  
千代田線「大手町駅」C2出口、  
都営地下鉄「神保町駅」A8出口より  
それぞれ徒歩5分

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1  
国家公務員共済組合連合会 東京共済会館

電話：03-3287-2921(代表) FAX：03-3287-2913



簞会会長挨拶

輪になって  
語ろう

簞会会長 星野 昌子



昨年の総会以来、日本にとって政治・経済・社会面で多難な日々が続いております。その中であって会員の皆様からさまざまなご支援・ご鞭撻をいただき、ありがとうございました。この場をお借りして改めて深く感謝申し上げます。

伝統を守り若い人たちに脈々と伝えて行くと同時に、変化に即応できる簞会に、そして、竹早高校が日本の新しい世代を導いて行くための一助となれるように、そんな思いを胸に、昨夏には新しい理事会が発足いたしました。

現在、会則を現状に即し機能するものに改訂すること、会報をより魅力的にする作業、そして、創立百周年記念事業が総括の運びとなりました。

「日本人は、変化に対応することが苦手」とよく言われます。そんな言葉を吹き飛ばすために、就任以来私が心がけていることは唯一つ、「輪になって語ろう」の精神です。権限を持つ人から一方的に話を聴くのではなく、「一人一人が主体的に論議に参加し、言葉だけでなくからだや心も使って責任をもって行動する。それらが相互に刺激を引き起こして、新しいものを創造する」というやり方です。理事や各委員は、多彩な経験と才能を駆使して活動しておられます。このやり方は、一見混沌とした様相を呈するため、不安を感じる方もおられるでしょう。しかし、ボランティア活動に関わって来た私は、この「混沌の中からこそ創造への原動力が生まれる」と信じております。もちろん、会長としての責任は忘れておりません。皆様のご健勝を祈りつつ、ご指導、ご協力をお願い申し上げます。

校長挨拶

生まれ変わる  
予感がします

都立竹早高校校長 甲田 充彦



2003年の春は、なかなか来てくれませんでした、いままさに春爛漫。竹早の丘は、緑を濃くしています。竹早に赴任して光栄に思います。

前任校は、第四高女の南多摩でした。第四から第二への格上げです。竹早高校の学校運営への簞会の支援は、役所にいたころから聞いており、うらやましいなと思っておりました。

校門を入ると、クスノキとヒマラヤスギの大木が、貴婦人をエスコートする高貴な紳士の趣で、見とれてしまいました。まるでプラハの春音楽祭が開かれる市民会館と火薬塔のようです。「わが祖国」の主旋律モルダウが聞こえてくるようです。

石原東京都知事がスピードをもって進めている都立高校改革の一環として、今年度から学区制が撤廃になりました。本校を第一志望とする中学生は、423人を数え、18学級規模の学校としてはトップでした。応募倍率でいえば、全都立高校6番目の高倍率でした。生徒を伸ばす学校として注目される学校にしなければなりません。確かな学力を身につけ、進路実績を向上させるため、1日7時間授業にし、教科バランスをとりました。2学期制にして授業日数を確保しました。教養を高め、国際感覚とリーダー性を養う教育を進めます。

竹早高校がまた生まれ変わるかどうか、この3年が正念場だと考え、学校経営に邁進いたします。これまで以上のご理解とご厚情を賜りますようお願いいたします。



# 都立高校改革と竹早高校

学区制の全廃で都立高校の志願率が上がり、日比谷高校など一部の学校の動向が、この春の大きな話題となった。そのような状況の下で、わが竹早高校は、どう変わろうとしているのか、同窓生のみならず、その概要をお伝えしたく、その周辺を追ってみた。



## 1 都立高校の変遷

2000年に創立100周年を迎えた竹早高校は、男女共学の新制都立高校となってからも、早や半世紀が経過した。時代も社会も大きく変わるなか、'97(平成9)年、東京都教育委員会は「都立高校改革推進計画」なるものを打ち出した。都立高校は、なぜ改革を迫られたのか？

教育分野の変化を見てみると、高度経済成長と共に、高校進学者数が増加し、進学率も90%を超え、高校が義務教育化する時代となった。一人でも多くの希望者を受け入れようと公私立とも新しい高校が増設された。ところが、'80年代になると、少子化傾向が現われ、減少した生徒数に対し都立全日制普通科高校210校では過剰な状況になっていった。その傾向は、平成になってから著しく、区市町村では、小中学校に1学年1クラスしかない単学級が出現し、統廃合が余儀なくされている。'96~7(平成8~9)年になると長期的展望を持って公立高校の配置をはじめ、施設の規模等について考えざるを得なくなった。都教育委員会によれば、都立高校を統廃合することにより、180校とする

計画が立てられている。

一方、進学して来る子どもたちにも大きな変化があった。彼らは、極めて多様化し、目標を持って入学する子どももいれば、親に言われ取りあえず高校に入るかという子どももいる。また、偏差値で輪切りにされて、不本意に入学する子どももいる。受け入れる側も、生徒の変化に対応できなかった学校では、学校生活になじめない退学者の増加が目立つようになった。

また、大学進学を目指す子どもたちは、進学指導の行き届いた私立、あるいは、エスカレーター式に進学できる大学の附属高校に流れる傾向にある。はたして、都立高校は、子どもたちの要望にキチンと応えられる教育をしていけるのだろうかと関係者の間で論議されるようになった。とりわけ、'67(昭和42)年に学校群制度が導入されると、軒並み都立高校の進学実績は凋落していった。

このような状況下で、'96(平成8)年、外部の専門家を含めて、「都立高校の将来を考える懇談会」がもたれ、'97(平成9)年、向こう10年間の「改革推進計画」が発表された。

## 2 子どものニーズに応える高校

改革の第一が、自分の特性に合った学校が選べるように、単に偏差値で輪切りにするのではなく、各校が、個性化・特色化を前面に打ち出すこととなった。従来なかった新しいタイプの学校の登場である。例えば、  
① 中高一貫教育高校(小石川、両国、武蔵、白鷗など)  
② 単位制高校(墨田川、国分寺、新宿、飛鳥、芦花など)  
③ 昼夜間授業を行う定時制高校(チャレンジ・スクール)  
④ 普通科と工・商業科を合わせた総合学科高校  
等々、また、進学指導重点校と銘打ち大学進学を中心に教育を進める高校、さらには、少人数制で“分かる”授業を行い、やる気を育てるエンカレッジ・スクール(足立東、秋留台)もある。

201(平成13)年度に、日比谷・戸山・西・八王子東の4校が進学指導重点校(いわゆる進学校)に指定され、さらに、同じく準備校として、青山・立川・国立の3校が指定された。これらの重点校は、始業前や放課後、土曜日にも生徒の進路希望に応じて受けることができる講習が多数用意されているほか、ガイダンスを行うなど、全学的な受験体制を敷いて大学受験に対応した教育を重視している。

当然、この改革に反対する声もある。統廃合は、子



2003年1月28日付朝日新聞

どもたちの高校教育を受ける機会を制限することになるし、進学指導重点校を設定するのは、高校の予備校化を進め、また、差別・選別教育の推進につながるというのだ。

ところで、上記の新しい計画の対象校以外の高校は、どう位置づけられるのか。われらの母校・竹早高校もその中の一校だ。

都教育委員会が言うには、「子供たちが選択できるように、学校ごとに大いに特色を出して欲しい…」と。生き残るために、衆知を集めて学校のイメージも自ら作り上げ、生徒数を確保して行く以外に道は無い。まさに自由競争の真只中に入ってしまったのだ。

## 3 都立高校の存在意義を求めて

今年度の都立高校入試を控えた1月下旬、新聞に、「学区撤廃で都立高校懸命」という活字が踊った。「受験者募集」の「幟」を立てた校長が、自ら学習塾に出



向き、「よろしくお祈いします！」と売り込みに懸命になっているマンガが描かれている。

撤廃により、学区制で守られていた受験者数は当然、流動的になる。撤廃の理由は、「受験生の選択幅の拡大と特色ある都立高校作り」と言われるが、根底には都立高校復権への期待がある。そして、そこには、自然淘汰もやむ無しという現実が待ち受けている。

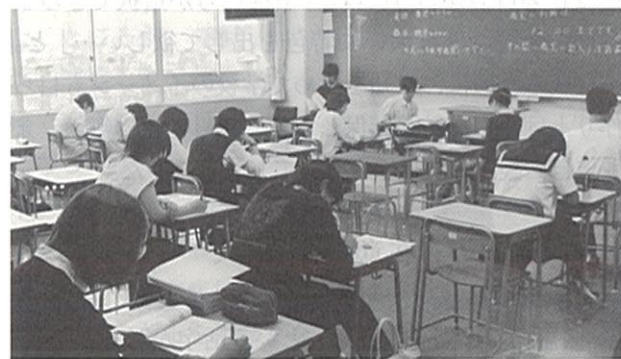
生徒数の確保は、生き残りの必須条件だが、そのためには、各学校がどういふ生徒の育成をめざして教育に取り組んでいるかが問われてくる。私立と違う都立の特色、大学進学率、スポーツ全国大会出場など、具体的な目標を示す「学校経営計画」を全都立高校が作成することとなった。

#### 4 竹早高校の将来像は？

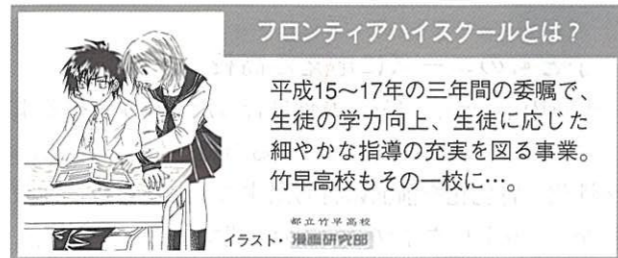
都立・私立合わせて400校近い高校の中で、竹早高校の将来をどうしていくかというビジョンが問題になる。学校の将来は、その独自のビジョンの策定の仕方次第で決まると言われている。

これから努力する学校は、大きく伸びるだろうし、停滞する学校は留まってしまう。

竹早高校は、何をセールスポイントにするのか？教職員・生徒・保護者、さらに卒業生が一体となって新



土曜自習室でサポートティーチャーにアドバイスを受ける生徒たち



#### フロンティアハイスクールとは？

平成15～17年の三年間の委嘱で、生徒の学力向上、生徒に応じた細やかな指導の充実を図る事業。竹早高校もその一校に…。

都立竹早高校  
イラスト・漫画研究部

しい竹早高校を作り上げなければならないと、さっそく母校を訪ねた。

名門校として名を馳せた母校。時を経ても今なお入学して来る生徒のほとんど全員が進学希望であり、充実した高校生活を期待している。

また、保護者や同窓会もその思いは同じだ。したがって、進学校と位置づけているが、単なる予備校的学校でなく、伝統を踏まえ、人間性豊かな自主・自律の精神に富んだ生徒の育成に力を入れ、高校教育の正道を行きたいと教師陣は語る。

すでに、昨年からは、教育活動をさらに充実させていくため、竹早の将来像について検討する「将来構想委員会（仮称）」を設置、いよいよ本格的に論議・検討を進める段階に入っている。

進路指導・進学指導を積極的に行う予定だ。教科の面でも、15年度より1日当り45分・7時限授業を実施し、国立大学入試の5教科8課目にも対応できるよう、授業時数を多く設け、授業時間の確保、2期制の実施など、充実した教育課程となっている。

さらに、大学との連携をはかり、昨年7月より生徒の進路意識の啓発のため、大学教授の、いわゆる出前授業を行っている(学芸大・お茶の水女子大・武蔵大)。ほかに、東京農工大と協定を結び、夏休み集中講座に生徒が参加した。

このように具体的に教育体制を整えている矢先に、本年2月、文部科学省より、都教育委員会を通じて都



善戦のあとがうかがえる優勝カップの数々

立高6校に「学力向上フロンティアハイスクール」の実施募集があり、竹早にその一校としての打診があった。学校側は、この事業の実施計画とすでに竹早で行っている教育の理想と目的が一致したので、応募することとし、竹早の将来像構築に向かって大きく動き始めた。

#### 5 母校の素顔に迫る

標準服はあるが、服装は自由、校則も最低限のものだけ。そんな自由な校風の中で、'93(平成5)年に新装なった校舎は、今もきれいに使われている。体育芸術棟の屋上には、人工芝生の運動場があり、体育館やプールも広々としている。もちろん、IT施設やLL教室も完備されている。都心で交通アクセスが抜群である。22年前から帰国子女を受け入れ、各学年15名の枠内で一般生と共に授業を受けている。外国人講師とのチーム・ティーチングや、ドイツ語・フランス語の選択講座の設置など国際理解教育に力を入れている。

また、部活動も活発で、平成13、14年度で陸上部・水泳部はそれぞれ関東大会に出場、水泳部は全国大会にまで出場を果たした。14年度、軟式野球は、都ベスト3に入り、女子バレーは都ベスト16に、バドミントン部は4ブロック中のAブロックで3位に入った。加えて吹奏楽部は、平成14年都Aブロック銅賞に輝いた。わが母

校の生徒は真面目で集中力のある子が多い証拠で、将来もまさに文武両道に通じる子が集まるに違いない。

P.T.A.も昨年は、ベンチャー企業を上げた人を呼ぶなど、「夢探し講演会」を行って、キャリアガイダンスを後押ししてくれている。また、昨年度から、卒業生の理系・文系現役大学生をサポートティーチャーとして、月2回、土曜自習室を開設し、後輩にアドバイスをして学習相談に応じてもらっている。

もちろん教師陣も、各教科とも、長期休業中や土曜日の補習を行っている。学校挙げて「竹早ルネサンス」との思いが一杯だ。

#### 6 同窓会ができること

竹早高校の明日のビジョンは、学校・生徒・P.T.A.そして、簗会が力を合わせて作っていききたい。

平成14年度から公立校は、5日制となり、竹早高校も、土曜日は学力アップや、学校の個性を生かすプログラムを行ってきた。

100年の伝統と、二万名に近い卒業生を有する簗会は、どうしたら母校に貢献できるだろうか。現在、人材・資金等の提供を学校側と協議している。

先輩が姿を見せ、活動の様子を在校生に示すことが最高の激励であり、伝統を受け継ぐ力となってゆくだろう。

女性が内助の功を求められた時代から、社会に貢献する人材を育成してきたし、共学になって半世紀、多様な分野での活躍は数知れない。そこで、早急に“簗会人材バンク(仮称)”を整え、会員諸氏のご協力を得て後輩の要望に応えるのも一策である。また、土曜活用講座の講師料や、学校案内のパンフレットの作成経費を一部負担することも検討する必要がある。

母校発展のため、後輩のため何ができるかを、目下模索中です。皆様方にご理解をいただきたく、是非ご意見をお寄せ下さいますよう、よろしくお祈い致します。



## 関西箏会 だより

関西箏会会長 野田朱實  
高校7回生



今年も、新卒業生を会員に迎えて箏会が、創立百周年を越えて次の周年祭への発進をされたこと、関西箏会からも当地の情報、近況など送らせて頂きます。

昨年、椿山荘での総会に出席して「コンピューターで探る顔・・・良い顔になろう」を興味深く聞き楽しみました。

総会后、母校見学で、見たかった『夢の風』モニュメントを感動でカメラに収め、「関西会員に伝える役」がありました。昨10月の総会会報に掲載して見ていただきました。校舎内を坂原先生のご案内で百周年に関して出来た図書コーナー、同窓会コーナー、コンサート、パフォーマンスの出来るスペースなどを見学し、今在校生がのびのび学び、体を鍛え、充実の学校生活を過していることは喜ばしいことと思いました。

昨年の秋の総会は、神戸の「酒心館」と云う酒蔵で開き、少ないご出席でしたが、後から珍しい会場で良かったと「ハガキ」をいただきました。総会への出席を増やすことの企画は、頭が痛いことの一つで、役員会ではいつも答えが出ません。東京本部から新しく送られた卒業名簿が関西方面転入者を載せてあり、拾いあつめて案内状を出した結果、初参加2名(但し戻った分もかなり)の出席があり、大歓迎でした。貸し切りの酒蔵で自由な席で大先輩中先輩小先輩、と同テーブルで話している様子は表情がイキイキされてほんとに素晴らしいパワーをいただいた喜びです。さて、平成15年は……

### 関西箏会総会お知らせ

日時 15年10月25日(土) 11時半

場所 新阪急ホテル 星の間 (JR大阪駅前)

電話 06-6372-6500

箏会のご発展をお祈り申し上げます。

## 湘南箏会 だより

湘南箏会会長 大塚証子  
高校2回生



今朝も、庭の椿や山茶花に数羽のメジロが飛び交って、今日の始まりを知らせに来ました。今日も明日もこんな平和な日が続くのでしょうか。

ふと振り返ってみると、私は、昭和19年から25年迄、6年間竹早の学び舎に通っていたあの時の事が急に思い出されてきました。丁度、戦争から終戦へとつらい時代でした。でも、暖かい友情、先輩の方たちとの交流で、卒業しても長いお付き合いが出来、これもひとえに箏会と云う親睦会があるからと信じています。

神奈川県の一隅湘南地方に住んでいらっしゃる方たちのお集まりで、湘南箏会という会が終戦後結成され、現在迄170名程会員がいらっしゃいます。毎年5月頃総会があり、去年会長の松本様よりご依頼があり、どうしても私が引き受けるようになってしまいました。微力ですが、これから3年間、会長という大任を一生懸命努めさせていただきます。

他に

書記-金子浩子 会計-神林範子、北村英子と定まりました。皆高校2回卒の同級生です。よろしくお祈りします。

今年は、5月30日(金)に鎌倉プリンスホテルで湘南箏会を正午より開きます。会費7千円。

一日七里ヶ浜の美しい海を見ながら歓談とお食事を楽しんで下さい。

今回は、現在の箏会会長星野様の国内ではもちろん、海外でのご活躍の様子等お話していただきます。

14年度は、高女30回生から高校14回生迄の幅広い年齢層の方が38人出席して下さいました。会の最後に、皆で合唱する校歌、年と共に高い声が出なくなるのでさみしさがひしひしと感じられます。

総会に会員以外の方も、大勢参加して下さい。お待ちしております。



# なつかしの先生

## 本多英男 先生

### Profile

1929年富山県生まれ。東京教育大学体育学部卒業後、京浜女子商校体育講師、富山県立滑川高校教諭を経て都立竹早高校に赴任(1956~67)。のち、都立城北高校を経て、1969~90年の間、東京藝術大学附属音楽高校、東京藝術大学美術学部、文化女子大学講師、2002年退職。



## スポーツ用語辞典を翻訳出版

竹早高校を退職してすでに35年になる。関校長からの要請で富山から赴任したのが数年前のように思われる。あの狭い運動場でのラグビー、高鉄棒上からの大和魂(腰掛け回転下り)、小石川サッカー場での関東大学サッカー決勝戦直前、観客の前で演じた50人サッカーの授業。今、思い出してみると厚顔そのものでした。

在職中、アメリカよりソ連のトレーニングの方が科学的であることを知り、ロシア語の習得に夢中になった。東京オリンピックの開催時バレーボールの役員となり、ソ連の監督と懇意になってトレーニングやバレーボールの本を翻訳出版することができました。

藝大附属音校ではクラブ活動が無かったこともあり、語学の勉強やクラシック音楽を聴く機会に恵まれました。

長野冬季オリンピック時には「冬季オリンピック四ヶ国語辞典」を出版し役員の皆様から感謝され、昨年はワールド・サッカー用に「七ヶ国サッカー用語辞典」を上梓した。

90年に藝大附属を退職した時、第二の人生の仕事として夏のオリンピック(34種目)の六ヶ国語辞典作成に挑戦しようと思ひ努力していますが、もうすでに13年目になりませんが未だ完成していません。

今や日本の音楽界を背負う附属音高や藝大で教えた学生たちからの招待で、せっせと音楽会に通うこの頃です。

[本多先生のご連絡先]

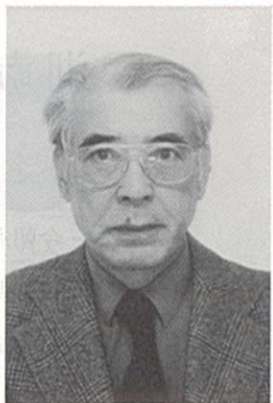
〒336-0041 埼玉県さいたま市南区広ヶ谷戸90-1

Tel 048-881-2684

## 江野沢一嘉 先生

### Profile

1933年東京下町生まれ、房総で育つ。東京教育大学文学部を卒業後、竹早高校英語担当(1959年から2年間)。東京教育大学大学院、オックスフォード大学客員研究員などを経て慶応義塾大学名誉教授、信州豊南短期大学学長代行として今日に至る。



## 神の見えざる手に導かれて……

天皇陛下が前立腺ガンの手術を受けられた、とのニュースが流れた。陛下と同じ歳であり高校生のとき肺浸潤で3年間休学を余儀なくされた私が、この歳になるまで生き長らえたのは不思議である。(10年前、医者にガンで死ぬと宣告され、以来治療を続けてはいるのだが。)

竹早高校で教壇に立っていた2年間、私は、その後の教壇生活のどの時期よりも楽しく充実した日々を過ごした。当時、教員室には、早坂先生(英語)、宮尾先生(数学)など異彩を放つ名物教師が多く自由闊達な雰囲気にも包まれていた。私は、若さだけが取り柄の凡庸な新米教師だったが、先輩や同僚の先生がたから温かい眼差しで見守られていたと思う。つくづく幸せだったと思うのは、屈託のない純真無垢で聡明な生徒たちに囲まれていたことである。

私は、人生の旅路の要所所で天の声を何度か聞き、その声に素直に従っただけである。あれほど楽しかった竹早高校の教壇を、未練もなく離れたというのも、大学時代の恩師に「大学院で勉強を続ける気はないか?」と問いかけられ、私の進むべき方向が決まった。フルブライト奨学金を得てイリノイ大学院で研究できたことなども、目に見えない神の手に導かれていたのだと思う。

[江野沢先生のご連絡先]

〒399-4604 長野県上伊那郡蓑輪町福与1000-162

Tel/Fax 0265-70-5169 E-mail:k-enozawa@honan.ac.jp

## \*\* 竹早高校にて \*\*

'94年、新1年生の担任として、この竹早高校に赴任して早や9年が経過しました。この年、新教育課程の初年度に当り、竹早高校では新しい試みとして、2年時に「文理」によるクラス分けをスタートさせていました。

同じ4学区の高校に通っていた高校生時代、あまり強い印象は残っていませんでした竹早への異動が知らされた時、いささか不安があり、実際、周りからも「大丈夫なのか」と心配されました。

幸い担任となったおかげで校内のシステムなどを比較的早く知ることができ、学習面では、生徒から質問されて恥をかくことの無いように必死になって勉強もしました。若い頃は、「数学青年」でもあったので、勉強することの苦痛はありませんでした。「数学」の魅力を少しでも伝えることができたかと考え、少々無理な出題をしたこともありました。真面目にコツコツ勉強する生徒の多い竹早では、馬力や集中力が生きる数学のような教科は敬遠される傾向であったようです。

「継続と集中」の両面を備えることは容易なことではありません。長距離ランナーの持続力と短距離スプリンターの馬力の両方必要だからです。

竹早での3年間を過ごした同窓生の皆様には、必要に応じて使い分けをしていただきたい。どんな場面でも、竹早の後輩のためにも、ご活躍を期待しております。

[久住先生のご連絡先]

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-12-502

## 久住和敏 先生

### Profile

1952年東京生まれ。東京理科大学理工学部数学科を卒業。1977年より東京都立高校教諭。1994年竹早高校に勤務、数学科担当。現在、竹早10年目、今年度より生徒部を担当。



## < 心のふるさと >

2年前、36年に及ぶ教職生活に別れを告げた。管理職を除いた教員生活25年のうち、竹早で13年間を送り、期間が5割を超えるだけでなく、年齢的にも30代前半から40代中頃までという一番油が乗っている時だった。

13年のうち、担任をしていたのは7年間、卒業生を出したのは30回生と34回生の2回である。

「生徒と一緒に」をモットーとした。3年の時の文化祭の思い出。30回生では、お化け屋敷で部門賞を取り、34回生では、当時のテレビ放映「カリキュラムシーン」をまねてのビデオ製作、題して「3年B組渡邊先生」。見事竹早グラブプリに輝き体育館でのV字胴上げは忘れられない。

教科指導では大学進学を意識し過ぎたのではないかと心残りがある。決して間違っていたとは思わないが、数学の面白さ、美しさは教えきれなかったと反省する。帰国生徒学級の取り出し授業は楽しかった。なぜ分らないのかということで幾つも発見できた。女子軟式庭球部の指導は、引き出す指導を心掛け、やりがいがあった。吉田賢治コーチとの二人三脚が抜群で本当に感謝している。

振り返ってみると竹早時代は生徒を教えるだけでなく、教わることがたくさんあり、すべての面で充実していた。私の教員生活の心のふるさとである。

[近況報告] 現在、茗溪会(現筑波大学同窓会)事務局で働き、季刊誌「茗溪」の編集、公開講座の企画、会員情報の整理などをし、充実した毎日を送っておられる。

[渡邊先生のご連絡先]

〒165-0033 東京都中野区若宮1-45-3-13

Tel 03-3338-8482

## 渡邊義正 先生

### Profile

1940年東京府芝区新橋生まれ。3歳から現在地(中野区)に居住。東京教育大学理学部数学科卒業。1975~'88年竹早高校数学科教諭。2001年3月都立豊多摩高等学校長を最後に定年退職。







# 学校の活動報告

竹早高等学校教頭 佐藤 正博

今春の入試から学区制が廃止されました。これは、本校の属している第4学区（文京・豊島・北・板橋の各区）の中学校から、黙っていても中学生が竹早に送られてくるという、今までの状況を大きく変えるものです。本校では生徒募集のために他の学区を含め150校近くの中学校を訪問

## ●平成14年度の主な行事

- 4月 8日始業式 9日入学式 (241名入学) 18日健康診断
- 5月 1日生徒総会 2日校外学習 (遠足) 15日体育祭 (小石川運動場) 20日PTA総会 28~31日中間考査 31日避難訓練
- 6月 8日授業公開日 15日PTA陶芸教室 28日第1回学校運営連絡協議会
- 7月 1~4日期末考査 15日PTA夢さがし講演会 (サンケア化粧品科学と機能・講師 コーサー研究員) 16日歌舞伎教室 19日一学期終業式
- 7月~8月 夏季休業中  
合宿 尾瀬 (サッカー、剣道、バドミントン、吹奏楽、ソフトテニス、硬式テニス) 六日町 (陸上、軟式野球) 河口湖 (男女バレーボール、男女バスケットボール) 竹早山荘 (天文、演劇) 北アルプス・白馬岳 (山岳部)  
補習 各教科で430時間を実施  
公開講座 「書を楽しむ」「草木染めを楽しむ」7月下旬に実施 (社会人対象・募集は都や文京区の広報等)
- 9月 2日2学期始業式・防災講話 14~16日竹早祭 29日中学校女子バレーボール大会 (竹早杯・中学校9校参加)
- 10月 22~25日 中間考査 25日オープンデー (公開授業、体験入学、学校説明会)
- 11月 7日開校記念日 10日都立高校合同説明会 (立川高校) 14日第2回学校運営連絡協議会 17日都立高校合同説明会 (新宿高校)
- 12月 5~11日期末考査 13日PTA夢さがし講演会 (失敗しない大人のなり方・講師 宮本まき子氏) 25日2学期終業式
- 1月 (平成15年) 8日3学期始業式 18・19日大学入試センター試験 31日推薦入試
- 2月 14日帰国生入試 20日一般入試 21日国際理解講演会 (講師 簗会会長・星野昌子氏) 27日第3回学校運営連絡協議会
- 3月 7日卒業証書授与式 (238名卒業) 11~14日2年修学旅行・九州北部 25日修了式 28~29日中学校女子バレーボール大会 (6校参加)

し、また、学校の特色を学校説明会やホームページを使ってアピールしました。その結果、今年度入試の実質倍率は、男子1.55倍 (昨年度1.06)、女子1.77倍 (同1.55) と、昨年度より応募者が増えました。以下、実施した年間の行事と進路実績を報告します。

●平成14年度から土曜が休業日になったのに伴い、生徒への学習援助を目的としたPTA主催の土曜自習室を実施した日は以下の12回、生徒参加数はのべ226名。  
6/15、6/29、7/13、9/28、10/19、11/2、11/16、11/30、1/18、2/1、2/15、3/1 (以上、12回の実施月日)

●平成14年度進路状況 (別表参照)  
進路別に集約すると、国立大学 (12)、私立大学・短大 (145)、専門学校他 (14)、就職 (0)、予備校等 (67) である。

(別表) ○進路状況……合格者数一覧 (平成14年度卒業生238名)

- 国公立大学 (14)  
東京工業大学、筑波大学、千葉大学 (3)、東京学芸大学 (3)、東京水産大学、埼玉大学 (2)、北海道大学、電気通信大学、横浜国立大学
- 私立大学 (266)  
早稲田大学 (6)、慶応義塾大学 (5)、上智大学 (4)、立教大学 (4)、青山学院大学 (7)、東京女子大学 (2)、日本女子大学 (5)、中央大学 (10)、明治大学 (19)、法政大学 (15)、学習院大学 (11)、明治学院大学 (7)、日本大学 (15)、成蹊大学 (3)、東京理科大学 (6)、専修大学 (3)、名城大学 (3)、東洋大学 (19)、武蔵大学 (5)、東京電機大学 (10)、東京農業大学 (3)、東京家政大学 (4)、亜細亜大学、芝浦工業大学 (8)、大妻女子大学 (6)、昭和女子大学 (2)、拓殖大学 (5)、武蔵工業大学 (1)、共立薬科大学 (2)、工学院大学、駒沢大学 (4)、東海大学 (2)、東京経済大学 (2)、同志社大学、星薬科大学 (3)、武蔵野美術大学、立命館大学 (2)、明治薬科大学 (2)、第一薬科大学 等
- 短期大学 (4)  
青山学院女子短期大学 (2)、文化女子短期大学、埼玉医科大学短期大学
- 専門学校 (13)  
山野美容専門学校 (2)、文化服装学院 (2)、東京法律専門学校 (2)、都立板橋看護専門学校、日本歯科大学附属歯科専門学校、音響技術専門学校等
- 就職 (0)

# 竹 早 エ コ ー



高女36回生 (1936年卒)

金松 孜子

昭和6年4月セーラー服を着てヒマラヤ杉そびえる竹早の校門をくぐってから70年余。入学時の級友は50名、そのうち23名の方は誠之小学校から、私の出身校戸山小学校からは2名でクラスも分れ分れになり心細い思いをいたしました。

現在、ご住所が判っていらっしゃる方は27名、3名の方が住所不明で、どうしておいでか気にかかっています。遠方の四国の方やお体のご不自由の方もおり、平素のクラス会は16、7人です。

絵画の個展を開かれたり、ご趣味のお写真でいつも級会の写真を撮ってくださる方、西洋史やフラダンスなどそれぞれお元気に活躍です。

学校時代バスケやバレーボールの選手で活躍なさった方はさすが背筋がピンとしていらっしゃいます。私は健康と楽しみをかねて童謡コーラス会で時々声をあげております。

名簿でお近くと同窓生の方を見つけると、親しみを感ずけて楽しみにしております。

後輩の皆様本当にありがとうございます。何もお手伝いできませんがよろしくお願い申し上げます。

高女40回生 (1940年卒)

稲葉 良子

平成14年5月24日、2年ぶりで紅組のクラス会を新宿ルミネの“薨”で行いました。2名が欠席となりましたが、西宮から梅沢さん、大津市から樹下さんもかけつけてくださり総勢14名、常連の顔ぶれとなりました。

2年間の積もる話をしていくうちにいつの間にか50年前に戻って次々と思い出がよみ返り、若さを取り戻した2時間は、あまりにも短く感じられました。

今年は80歳を迎える年齢になりましたのに、誰の手も借りず此のように出席できる自分たちは本当に幸せだなあと感謝の気持ちでいっぱいです。

皆健康に留意し、お互いに励ましながら生きることを誓い、次回15年のクラス会は5月半ばと決めました。

在学中、クラス替えがなかったこともあり紅白合同のクラス会を持ってないしておりますが、人数も少なくなって残り



少ない人生を迎えております。今後は出来ることなら合同のクラス会が持てたらと思います。

昨年暮、白組の橋本さんが亡くなられた由、ご冥福をお祈りいたします。

高女47回生 (1946/47年卒)

白水 八重子

私達の学年が女学校に入学したのはあの戦争が12月8日に突入した翌年の4月でした。

戦争という大きな波にのまれ、空襲で家が焼けたり疎開をしたり同じ教室で机を並べるとい時代ではありませんでした。

それから何十年が過ぎ、毎年桜の花が咲く頃に心の故郷である竹早の級会に集まるようになりました。学生時代とスタイルや容貌は変わっても向かい合う心はあの当時と同じように思われます。

昨年も盛田さんの大変なご好意とご配慮によりアーク森ビル37階のアークヒルズクラブで4月10日級会を開くことが出来ました。いつもの“ピーチクパーチク”もそれも楽しいことですが、今回はゲストをお願いしてなにかお話しなどお聞きしてはということになり、今まさに時代を走っていられます作家の島田雅彦様を盛田さんにお世話いただきました。はじめは緊張しておりましたが実にわかりやすくフランスソコザベリオの時代よりの歴史的なことを興味深くお話をいただき、時間の過ぎるのを忘れたほどでした。

また今年も桜の便りを耳にする頃も近くなりました。きっとお集まりのお便りが来る頃であろうと待っております。

高校4回生 (1952年卒)

小林 和子

## 紫竹会報告

平成14年5月16日、ホテルモンレー銀座で、大島・高松・小見山三先生他、出席者35名が参集。本来2年毎の開催を、今年が50周年に当たる為、1年伸ばして3年目での開催となった。

始めに簗会より寄贈されたビデオ『竹早の100年』鑑賞後、大島先生の音頭により乾杯。食事に入る。簗会名簿と写真集『たずさえて友と』を販売。写真集は完売。名簿は簗会のほうから買った人が多かったので売れず。

この後、先生3人からお言葉を頂き、後、一人ずつ近況報告。続いて青木誠子さんから「紫竹会会費はもう徴収せず、今、プールしてあるお金を使い切ってしまったらどうか。私達も年をとってゆくし、これから先、何回、紫竹会を行なえるか。使い切ったところで紫竹会も終了することにしては。」との提案あり。全員賛成。



最後に幹事からの投げ掛けで、紫竹会開催サイクルをこれまでのように2年するか、それとも毎年か、が検討され、毎年行うことに決定。なお、次回の紫竹会幹事は、青木誠子さん、吉沢詠子さんグループに決まりました。

#### 思いがけない邂逅

もう大分前のことになります。篁会の総会担当学年になり、同期の人たちが竹早に集まりました。総会の企画・運営、そして会報の発送と、こなさなければならないことは沢山ありましたが、とりあえず会報の発送が私の仕事でした。目の前に積まれた会報と総会のご案内を折って封筒に入れ、宛名を貼る。結構、単調なんです。そろそろ飽きた頃でした。なんとなく住所に目をやると、あれ、私の住所ではありませんか。自分宛だと思ってよく見ると、名前が違うんですね。

同じ建物の7階までが同じ。ということは、私の部屋の並び。いつも顔を合わせている柳保さんではありませんか。え～知らなかった。柳さん、竹早だったの。

私がこの住所に住み始めて、もう25年になります。ですから柳さんのおつきあひも、25年。びっくりしました。

封筒の宛名を貼っていなかったら、これからもずっと知らなかったこと。そんな偶然が篁会の名簿の中に、まだまだあるのかも知れませんね。

#### 高校8回生 (1956年卒)

##### 石川 理

竹早高校8回生、現在八起会として同期会を継続しています。

昭和31年卒業後、約20年間は卒業時のクラス単位の集まりが中心でした。昭和50年に第1回の同期会が開催され42名の参加者があり成功裡に終わりました。

それをきっかけに2～3年置きに同期会が開かれるようになり、次回の幹事役はクラスの持ち回りで行われ、各クラスは趣向を凝らし泊又は日帰りの計画を立て同期会を盛り立てています。それ以降現在までに19回の同期会を重ねています。

直近4年間の同期会は次の通りです。(以下、行先・担当クラス・参加者の順に表記)

- 16回 (平成11年) 草津ナウリゾートホテル ……D 31名
- 17回 (平成12年) 鴨川グランドホテル ……A 31名
- 18回 (平成13年) お台場 日航ホテル ……B 40名
- 19回 (平成14年) マホロパマインズ三浦 ……C 28名

最近の問題点は参加者が30～40名程度で、メンバーが固定化されて来ました。大勢の同期生が参加出来ないものと各クラスの幹事が頭を悩ませています。尚その他ゴルフ愛好会 (20名程度)、スキー愛好会(10名程度)が同期会以外に活発に開催されています。

昨年高校8回生の初代学年幹事を務めていた須藤彰久君 (平成14年10月永眠)、二代日本間宏君 (平成14年6月永眠) が相次いで逝去されました。

謹んでご冥福をお祈りします。



#### 高校14回生 (1962年卒)

##### 山内 亨

#### 次期当番学年に当たって

1) 次期当番学年の皆さんへ

2004年の当番学年は私たち14回生 (昭和37年卒)、35回生 (58年卒)、そして今春卒業された55回生が担当です。6月29日の篁会総会後、私たちの出番です。

「人間は他人との交流がなくては、また他人からの働きかけと他人への働きかけがなくては自己を完成することはできない」と、トルストイの言葉に有りますが、100年を超える同窓の繋がりは私たちの貴重な財産でもあります。

幅広い年代の方々に満足して頂ける企画と内容の濃い、触発の場としていきたい。

若い頭脳の55回生に加え、準当番学年の15回生の斬新なアイデアもお待ちしております。

尚、6月29日の篁会総会終了後に来年に向けての具体的な打合せ会を持ちます。

ご意見、お問い合わせは、下記まで。

メールアドレス yamauchi@seikyo-np.jp

TEL・FAX 03 (3967) 7384

2) 2004年度・14回生同期会について

昨年秋、第7回同期会を開催。「朝日新聞・ひと欄」にも紹介されご活躍中の本多英男先生、初参加の方も交え、楽しい集いとなりました。

来年は私たちが「篁会総会」の当番学年に当たりますので、総会への出席で同期会を兼ねることとします。14回生の皆さんの多数の参加で「篁会総会」を、大成功させていきたいと思ひます。ご意見ご要望もぜひお寄せ下さい。

#### 高校15回生 (1963年卒)

##### 土田 善則

#### 40年ぶりの竹早山荘

清里の寮で昨年11月久しぶりに同期の有志が集まるということで喜んで参加した。20人程の参加者のほとんどは寮が完成した40年前豪雨で小海線が不通となり、クラス全員1週間足止めをくった仲間。思い出は遠く隔たる程美しくなるものだが、この時のサバイバル体験がクラス仲間の絆を強くし、現在でも尚、集まりの吸引力となっているような気がする。

時の流れと共に清里周辺のみならずそれを眺める我々も、セピア色の卒業写真の中の自分達とは随分変わってしまったが、竹早山荘は昔とほとんど変わらぬ外観で静かに佇んでいる。竹早山荘の存続は危機的な状況が続いているとかで事務局の岩田さんから事は毎に声がかけている。

仙人のような卒業生の管理人が世話をしてくれ、料理もグレードアップしたものを作ってくれて驚いた。設備も改良され快適に過ごせる。この寮を皆で支えていこうという意気込みが強く感じられ、宴は夜遅くまで盛り上がり、豊かな時間が流れた。竹早山荘はまずもって我が母校の精神的な財産だ。青春真っ只中では別に何とも感じなかったどころか、今思い出しても恥ずかしいくらいの悔いだらけだったが、還暦を目前にしたこの年頃になって初めてあの高校時代の日々が有り難い奇蹟のような日々として輝いてくるようになった。老人パワーが云々される昨今、過去の自分



再発見の旅は大いに実行してみる価値があると思う。来年は第4回の同期会 (ミーハー会) 開催と篁会の準当番学年の年である。

この気持ちと力を結集して、大いに盛り上げよう。

#### 高校21回生 (1969年卒)

##### 田島 加代子

在学当時、毎朝、英単語のテストがありました。お昼のお弁当も辞書を引き引き食べました。15、16、17と、竹早で過ごした青春は本当に暗かった——授業の終わりの鐘と同時に席を立ち、都電に飛び乗って、逃げるように帰宅していた私でした。あれから35年たち、さすがにやっと少しは懐かしく振り返る気持ちが出てきたのですが、同期の皆様は、いかがですか？

先頃、創立百周年行事のお手伝いをさせていただく機会がありました。そこで初めて知ったのです。竹早の卒業生にはパワフルで魅力的な人生を送っていらっしゃる方がいかに多いか、いうこ

とを。在学中にも伝統伝統と聞かされましたが、実はこれこそが伝統だったのだ、と。としたら、自分の学年にも素敵なたちが大勢おられたに違いない、と。

卒業以来一度も顔を会わせていない皆様、このへんで集まりを持ち、話し合いませんか。あの頃考えていたこと。今の思い。そして将来の展望。皆様からのご連絡をお待ちしています、心から。



#### 高校23回生 (1971年卒)

##### 中井 紀夫

同級生から電話がかかってくる。「同期会をやることになったぞ。手伝え」と言う。「だれだ、そんな面倒なことを言い出すやつは」と訊いてみると、首謀者はよく知っている男。手伝えることになる。クラス会ならともかく、学年全部集めようとは無謀なくわだてだと思ったが、各クラスに幹事をつくり、企画会議と称する飲み会を重ねるうち、たいいての同期生に連絡がつく。結局、学年の半数、約150人が集まる大パーティーになる。ということがあったのが、もう7年前、卒業25周年の年でした。先生方も、何人もお顔を見せてくださいました。

それが契機になって、その後、クラス単位で集まったり、卒業時とは異なる入学時のクラスで飲み会をして、高校時代は某さんが好きだったなどと告白合戦をしたりしながら、次は30周年をと、2000年記念をと、出まかせを言いあっていました。そうして、実現したのが、去年、みんな50歳になる記念の会。残念、これには私は出席できませんでした。実は、50歳になるのは、気が進まなかったんです。

#### 高校33回生 (1981年卒)

##### 原 (鶴島) 香織

昭和56年卒業の皆様、お元気ですか。22年前、荒井先生、石森先生、大石先生、佐藤先生、井上先生、大竹先生のもとで学んだ日々が懐かしく思い出される今日この頃です。

昨年の篁会は、私たちの期が幹事でしたが、参加者はブルームの下田さんと私の2人だけ…。ちよっぽど寂しい思いが残りました。

今私たちは、社会でも家庭でも最も重要な時期を過ごしているのだと思います。職場では中心になって仕事をなさっていることでしょう。また家庭では、家事・子どもの教育と目の回るような毎日を送っているでしょう。私も例外ではなく、仕事に家事に育



兄に悪戦苦闘の中、40才を迎えました。

竹早の思い出も遠い昔の霞の中。今ではバレー部の内々の友人と連絡を取り合う程度になってしまいました。でもこれを機に、栄養ドリンクを飲みながら毎日頑張っている青春時代の友と再会し、英気を養えたらと思います。篁会幹事、又は私の方にぜひご一報ください。お会いできることを楽しみにしています。

高校34回生(1982年卒)

角田 さつき

元Eパワーは健在です。

1年を超える毎月の積立貯金に取り組み、緊張しながらの初回開催は高校3年生の冬でした。以来、12月の第3土曜日は「フランス料理を食べる会」。女性陣だけの集まりですが8~14人前後が参加し、今年の冬には23回目を迎えます。ここ数年は「食事の時間だけでは物足りない!」と早めに集まり、ひとしきりの話を終えてからの食事会になっています。仕事のこと、遊びのこと、家族のこと、最近関心を持っていること等々。残念ながらの欠席の面々も返信はがきのコメントで近況が伝わります。知り合ってから年限のほう为上回った仲間たちですが、時におっと驚く報告も飛び出す、楽しいひと時です。第50回はフランスでの開催を! 実現したら会報にどーんとレポート提出させていただきます。

ところで、今年は私たち34回生が同窓会の当番学年だと2月にお知らせを頂き知りました。5月の会報発送作業には何名かで参加させていただくことになりました。各所で活躍されている諸先輩にお会いできるのも楽しみです。今、会報をお読みの34回生の皆さん、総会でお会いしませんか?

高校47回生(1995年卒)

中川 かほり

2月の終わりに、篁会報寄稿依頼のお電話を受け多少の戸惑いを感じつつ喜んで受けさせていただきました。というのも竹早高校を卒業して早8年が経ち、その間大学生生活を経て就職した私は日々の仕事に追われる中で高校の思い出も段々と薄れ、連絡を取り合う仲間も5本の指におさまる程になっ



てしまっていたからです。

振り返ってみると、ちょうど在学中に新校舎の設立があり私達は旧・新の校舎で学生生活を送ることができました。在学中にはまだ体育館や広い校庭もなく校舎は工事の機材で囲まれていましたが、今思うと古い校舎には竹早の長い歴史と伝統の重みを感じられ、新しい校舎にはこれからも一層の繁栄をとげるであろう我が校の姿を見ることができ、一つの節目の時代に学べたことをうれしく思います。

今回数人の友人に連絡を取ったところ、みな忙しい中都合をつけ集まってくれて懐かしい思い出話に大いに盛り上がりました。皆がそれぞれの道で頑張っていることに勇気づけられると共に、多方面で活躍している友人たちを誇りに思いました。

高校53回生(2001年卒)

那須 ラケル

一年前に会報発送のお手伝いに行きました。周りはどちらかというと祖父母に近い年の方が作業されていました。在籍中は何も考えずに篁会寄贈の設備を使い、100周年事業も儀式的に感じていましたが、支えられてきたことに感謝が湧いてきました。

この原稿の締め切りが3月15日でしたが、18日に学年会があります。去年8月にもクラスの枠を超え100人くらい集まりました。今度は退職される三輪先生を囲み80人近くの同期生が集う予定です。

まだ卒業して2年ですがクラスごとの集まりもあり、年に一度は部活のOG会もあって、同期生が会う機会は多いです。入学当初からの気の合う仲良し4人は2ヶ月に一度会い、今度一緒にお稽古でも始めようかという話になりました。会う頻度も高くなって、新しい共通の趣味が持て、一緒に息抜きが出来たらいいなと検討中です。先輩の方でお教室など開いておられる方がいましたらぜひ教えてください。



生物部

高校39回生(1987年卒)

野口 慎一

昨年(平成14年)9月に生物部のOB会をサンシャイン60クルーズクルーズにて開催いたしました。

当日は、三上、加藤両先生をはじめ、昭和27年卒業の方から、平成5年卒業の方まで総勢52名の方々に参加いただきました。今回も立食パーティ方式で行いましたが、皆さん久しぶりの再会とあ

って、昔話や近況報告、年代を超えての交流と思いに話が進んでおりました。また、会場では高校時代の思い出の写真や部誌などが展示され、楽しい高校時代を思い出されていたようでした。

今後のOB会の活動は、3~4年に一度のOB会はもちろんのこと、それ以外にも自然観察会や花見など、交流の場を持ちたいと考えております。今回出席できなかった方には、今後はぜひ出席していただきたいと思っています。なお、今回のOB会の案内状が届かなかった方や住所が変更された方、その他お問い合わせは下記宛、ご連絡下さい。

高校39回生 野口慎一 TEL:03-3984-3639



美術部 小野政吉先生の長寿を祝う会

高校26回生(1974年卒)

稲角 久美子

平成14年6月16日の午後、若葉美しい目白の椿山荘で、竹早高校で長い間美術の教鞭をとられた小野政吉先生ご夫妻を囲み、先生の『長寿を祝う会』が開催されました。先生は92歳になられた今もお元気で、日々ご自分のアトリエで制作活動に励まれています。この集いは、先生が、美術部OBの伊藤麻沙人・小堤良一両氏が



共同制作された竹早高校百周年記念モニュメントを、数多くの卒業生に見てもらおうよう望んでいるということから、同じ事ならモニュメントもお元氣な先生のお顔も拝見しようと、美術部の卒業生を中心に企画を致しました。

当日、高女45回生から高校34回生迄130人超



の参加者があり、先生からは子どもの頃のお話を、卒業生からは先生の思い出やエピソードが語られ、先生を始め、出席者全員高校生に戻ったような、そんな夢のひと時を過ごすことが出来ました。これだけ沢山の卒業生が、美術・芸術の分野で活動していることを考えると、先生が指導して下さったことの素晴らしさを実感します。

会の終了時、先生から多くのプレゼントを頂きました。この後、希望者は貸切バスで、母校竹早へ向かい、モニュメントの作者お二人から、詳しい説明を受け、新しい校舎も見学し、校門の前で先生ご夫妻をお見送りして、往時の竹早生の懐かしく楽しい一日がおわりました。

お元氣な先生のもとに、再び皆で集いたい、参加された方はそのように思われたのではないのでしょうか。小野先生がご長寿で、また会の企画が立てられたらと切に願うばかりです。小野先生、お元氣で。教え子たちの為に、百歳を目標に、長生きしてくださいね。

陸上部 グランド無くても何とかなるさ

高校10回生(1958年卒)

豊泉 和男

練習はジブシーで立教グランド(現在城北公園)、中大グランド、都立北野高校で合同練習、母校では技術練習と体力強化、冬は同期の渡辺君(当時実家は中禅寺湖畔ホテル日光閣、アルペンスキーのインターハイ東京代表で現在早稲田大学体育局講師)とスキーへ。

卒業後に笹山先生が学園紛争真っ只中の在校生を何とかスポーツで人間教育をとホテル日光閣で開校したスキー教室を渡辺君の指導で今回の編集者である12回生の河村さんや他のOB、OGと手伝った事は忘れられない思い出である。

顧問の笹山先生をはじめ本多先生、布施先生、斎藤先生にお世話になり、体育教官室で3年間が終わったような気がする、練習環境は100メートルの直走路がとれず恵まれたものではなかったが部員は結構それなりに頑張ったと思う、今でも11回生キャプテンの今西君(長距離)、12回生西牧君(長距離)

は年に数回会う機会があり懇意にして頂いている。当時はインターハイ東京代表の中に駒場、西、白鷗、南多摩、大森、小石川等の都立組が結構頑張っていた。自分が2年間連続でインターハイに行かせてもらったのも竹早の自由な環境と都立高校が元氣だった時代のおかげだと感謝している。現在の竹早高校陸上競技部については傍目に見ているだけだが、顧問の城鼻先生(日本陸連ジュニア強化委員)が居られ、板橋陸上競技協会主催大



会に時たま選手の参加を目にするとやはり懐かしい。毎年8月に日本陸連主催の全国小学生交流陸上競技大会に竹早陸上競技部の生徒達がボランティアで小学生の面倒を見ている姿を見ると良い経験になるのではと楽しみである、自分は仕事(鋼製家具製造業)の傍ら相変わらず陸上競技に携わっているが、在学中に織田幹雄先生、三浦敬三さん(三浦雄一郎さんの父上)、南極観測隊長の横有恒さん等に、競技を教えられ、スキーのお話を聞き、南極の講演と笹山先生のおかげでその道で一流の人たちに会えたこと、それから9回生の緒方さん(現在俳優)にそそのかされてブランク&エスケープで明治座の天井桟敷(当時百円)へ辰巳柳太郎の新国劇を何度も見に出かけた事も加え竹早高校の3年間の教えは同期10回生の良き仲間とともに生涯大事にして行きたいと思う。

(筆者は、現・日本陸上競技連盟総務部委員)

### 竹早山荘からのご案内

竹早山荘は、八ヶ岳山麓清里高原の素晴らしい自然環境の中に建てられている竹早高校の宿泊研修施設です。ここを活動の拠点として、自然と共存し、自ら学ぶ人々の交流の輪を広げています。自主講座、合宿、グループ活動やセミナーなどに利用してもらっています。



昨2002年度は、オープニングセレモニーとして、ポールラッシュ記念館においてアンデスの音楽を聴きました。それに先立って、地元との交流を図るために、ひな祭りコンサートを開催しました。

6月頃より様々な方々の利用をいただき、夏休みに入ると、アーチェリーの合宿、生物部・演劇部・天文部の合宿、子どもアートキャンプ、親子キャンプ、野外パーティー、卒業生のグループ懇親会などの利用がありました。8月末には、現役のPTAの方々、前校長・現校長・教頭先生が訪問くださいました。10月には、恒例の窯焚きが行なわれ、素晴らしい作品ができました。

11月に、クロージングセレモニーとして、チェンバロの演奏と詩の朗読の会を開きました。

●竹早山荘のホームページ  
<http://plaza15.mbn.or.jp/~takehayakai/>

●賛助会員への加入のお願い  
年会費 3,000円以上  
振込先 郵便振替 番号00160-5-97121 (財)竹早会  
みずほ銀行/駒込支店 普通463246 (財)竹早会

エコー掲載ご希望のお申し出をお待ちしています。

### 謹んで御冥福をお祈り申し上げます

- 旧職員
  - 佐久間常子(家庭科) H14.3.27
  - 椿 實(国語) H14.3.28
  - 中川 武夫(修身) H 9
  - 武 保(家庭科)
- 高女
  - 昭和2年卒業(第27回入会) (甲組) 平出 俊子(西河) H14.11.24 (乙組) 鳥居 輝子(小林) H12
  - 昭和3年卒業(第28回入会) (甲組) 石田 布佐子(岡村) H14.5.7 (甲組) 中田 正子(田中) H14.10.15
  - 昭和4年卒業(第29回入会) (甲組) 木村 貞子 H13.11.9 (乙組) 入江 保子(吉岡) H 13.11.16 (乙組) 宮木 きみ代(森下) H12.4.12 (乙組) 清水 苗(吹野) H13.10.22
  - 昭和5年卒業(第30回入会) (乙組) 原田 久(小鷹) H 14.1.30
  - 昭和6年卒業(第31回入会) (甲組) 高見 孝子(池岡) H 14.3.9
  - 昭和8年卒業(第33回入会) (甲組) 大塚 千枝子(松本) H 13.9.24
  - 昭和10年卒業(第35回入会) (紅組) 麻生 玲(篠原) H 14.6
  - 昭和11年卒業(第36回入会) (紅組) 小立 愛子(大橋) H 9.11.29
  - 昭和12年卒業(第37回入会) (紅組) 山崎 美智子
  - 昭和14年卒業(第39回入会) (紅組) 染川 悦子(岡野) H 14.1.11
  - 昭和15年卒業(第40回入会) (白組) 木戸 うた代(宮沢) (白組) 神保 俊子(浜仲) (白組) 中野 純子(岡田) (白組) 橋本 十三子(西川) H14.11.25
  - 昭和20年卒業(第45回入会) (紅白組) 稲垣 ゆり子 H13
  - 昭和21.22年卒業(第47回入会) (紅白組) 田口 正子(岡) H14.4.30
  - 昭和23年卒業(第48回入会) (紅白組) 岸野 玲子(市林) H14.12.28
  - 昭和24年卒業(第49回入会) 松崎 房子 H15.1.7
- 昭和補習科
  - 昭和15年卒業(第4回入会) 金子 邦子(岡山) H 12.12
  - 昭和17年卒業(第6回入会) 西脇 二子(池永) H 11.5.21
- 竹早高校
  - 昭和26年卒業(第3回入会) (L) 田中 亘子 H 14.11.9
  - 昭和29年卒業(第6回入会) (A) 成瀬 彰男 H 6.10.3
  - 昭和31年卒業(第8回入会) (A) 宮田 裕子 H 9.4.30
  - 昭和33年卒業(第10回入会) (E) 片野 基之
  - 昭和34年卒業(第11回入会) (B) 中嶋 孝子(城戸) H13.11.5
  - 昭和35年卒業(第12回入会) (F) 若下 藤紀 H14.11.8
  - 昭和36年卒業(第13回入会) (B) 吉永 紀代(伊東) H14
  - 昭和43年卒業(第20回入会) (D) 山口 たか子(船渡川) H14.3.14

以上

平成15年3月31日までに董会に連絡をいただいたものです。

## Short Story

### 当世若者気質

高度に複雑化した現代社会で、閉塞感が漂い、希望を見出しにくい現状にあって、当世若者気質を脚本家志望の54回生石井雄一郎さんが3月初旬寄稿してくれました。

カーステレオから流れていたスムーズなラップが突如として終わった。ラジオの臨時ニュース。

「アメリカの……は、日本時間……に……にむけ……宣言を……、今後の世界情勢に……で重大な危機……」重大な危機。心に留めることもなく、車から降りた。

いつものようにホールには人がいっぱい、ドアを開けた瞬間にココナッツの強い匂いが鼻をついた。今日は、週末だからいつもより多く香を薫(た)いているのだろう。雨の降る音のようなレコードのノイズが、みんなの心に本物の雨を降らしている。ここは、行き場のない若者たちのための楽園、クラブオアシス。一週間の終わりに、みんなは、示し合わせたようにここに集い、浮き世を忘れるために激しく体を揺らす。汗をかくまで踊り続け、着ているものが体中にへばりつくようになると、ビールを飲み、スツールに腰かける。音楽は、常に脳を刺激している。

周りを見渡せば、ほとぼしる閃光のような照明の中に見知った顔がいくつも浮かび上がる。ここに来れば、たくさんの仲間たちがすでに集まっている。

「よお、元気そうにしてんじゃん」 ※  
「そっちこそ。お前こんな早くから何かウパってんだよ」 ※あせって、先ばしって

意味のない、下世話な話。たいしてしゃべりたくもない相手と交したくもない会話をする。ここでは、それがルールだ。心の隙間をうめるためにみんなは集まる。社会的弱者である彼らは、集団という意識の中で、自分一人ではないということを確認する。朝が来て、オアシスを一歩出れば、そこは一人では生きていくことの出来ない不毛の地だということに彼らは忘れていたのだ。少なくともここにいる時だけは。

このフロアの上部には、吹き抜け状に二階部分が設置されていて、そこは、ひととき照明が暗くなっている。時々、歓声にも似たにぎやかな声が聞こえてくるが、誰が何をしているのかはわからない。

ホールの中央部にあるステージでは、イベントもクライマックスに近づいたのか派手な衣装の男女が入り乱れるように体を動かしている。髪を脱色し金色に変えている者、肌の露出がとても多い者、二階でドラッグでもしたのか? ハイになって暴れる者までいる。

ビール、男女、集団、渾沌。ドラッグ、セックス、煙草。国家、政府、日の丸。アメリカ、ミサイル、テロ。民主主義、軍国主義、高度経済成長。民族、国境、人種。

俺は、この国に生まれ、何をすべきだろう?

オアシスでは、まだイベントが続いていた。携帯電話で別の仲間から呼び出しがかかったので、俺は、店を出ることにした。深夜二時。道路は、ひどく閑散としている。車に乗り込み、イグニッションにキーを入れようとした瞬間、目の前の空が赤く光った。ほどなくして、ラジオから忙しない声が聞こえてきた。

「アメリカは……頃、……にむけて……、……大統領は核ミサイルのスイッチを……」  
……マジかよ。



## 平成14年度総会報告

日時：平成14年6月22日(土) 会場：椿山荘

平成14年度の総会及びそれに続く懇親会は、担当学年の高校12回生が中心に、33回生及び53回生の協力を得ての企画、準備の下、181人という、近年では記録の多数の出席者に支えられ、無事とり行われました。



総会は、星野、城戸崎新旧両会長の挨拶に挟んでの事業計画・会計報告及び、新事業計画・予算案などの議事が滞りなく進められました。

総会の後、マスコミでもお馴染みの日本顔学会会長・東京大学教授原島博氏が、日本人の顔のルーツや、職業による顔の特徴、良い表情を作るヒントなどについてコンピューターを駆使して、ユーモアたっぷりに講演され出席者を魅了しました。出席されなかった方はまことにお気の毒といえる内容でした。

続く懇親会は、椿山荘の見事な庭園を見渡せる宴会場に移り、後刻、多くの方から味、ボリューム共に合格点をいただいた料理や、12回生有志を中心とした演奏が流され、歓談の場を一層と盛り上げました。

最後に、53回生から当日参加された最高齢の先輩の方への花束贈呈というイベントもあり、和気藹々のうちにお開きとなりました。

懇親会終了後に、希望者による母校へのバスツアーが企画され、校長先生のご案内で見た久しぶりの母校の変貌・発展ぶりに、参加者より感嘆の声が聞かれました。

(12回 萩 隆之介)

### 平成14年度 篁会総会決算報告

総会出席者 来賓7人  
一般会員175人  
計182人

| ●収入 (円) |           |
|---------|-----------|
| 会費      | 1,225,000 |
| 祝金      | 102,000   |
| 篁会補助    | 290,108   |
| 計       | 1,617,108 |
| ●支出     |           |
| 会場・懇親会費 | 1,411,680 |
| 講師謝礼    | 85,000    |
| 印刷代     | 63,974    |
| 雑費      | 11,144    |
| バス借上げ   | 22,000    |
| 来賓土産    | 11,340    |
| 通信費     | 11,970    |
| 計       | 1,617,108 |

以上篁会当番幹事 高校12回

### 平成14年度 篁会理事名簿

| 名誉顧問 | 城戸崎 愛 (高女3回)   |
|------|----------------|
| 会長   | 星野 昌子 (高校2回)   |
| 副会長  | 小山 豊子 (高校4回)   |
| 副会長  | 萩 隆之介 (高校12回)  |
|      | 高木 万里子 (高校3回)  |
|      | 竹野 昌子 (高校5回)   |
|      | 西森 道子 (高校6回)   |
|      | 駒見 宗信 (高校9回)   |
|      | 関 文隆 (高校10回)   |
|      | 角掛 隆 (高校10回)   |
|      | 池田 明子 (高校11回)  |
|      | 黒瀬 忠生 (高校11回)  |
|      | 河村 恵子 (高校12回)  |
|      | 遠藤 きみ (高校13回)  |
|      | 竹田 清 (高校13回)   |
|      | 浜野 輝夫 (高校13回)  |
|      | 村上 伸一 (高校14回)  |
|      | 吉田 年子 (高校14回)  |
|      | 坂原 富美代 (高校17回) |
|      | 大高 恵子 (高校17回)  |
|      | 渡辺 信博 (高校22回)  |
|      | 細田 裕美 (高校28回)  |

## 理事会報告

平成14年度は以下のとおり理事会を開催した。

### 4月4日 出席者25名 委任8名

議題1. 平成13年度事業報告及び決算報告について  
原案通り可決。

議題2. 平成14年度事業案及び予算案について  
会報広告予算削減、13年度発行名簿販売促進を了承。  
原案通り可決。

議題3. 担当理事報告  
100周年記念誌 夏休み明け完成予定。

会報委員会 4月19日発行予定。  
総会担当 総会および発送作業準備状況報告

### 5月24日 出席者25名 委任10名

議題1. 次期会長の推薦  
高校2回星野昌子氏、高校8回本間宏氏、高校11回黒瀬忠生氏の3名の推薦があったが、黒瀬氏より辞退の申し出があり、2名による無記名投票が行われた。結果星野氏24票、本間氏9票、棄権2票。よって、次期会長に星野昌子氏を推薦することに決定。

議題2. 担当理事報告  
総会担当 総会準備進捗状況報告。会報発送報告。  
名簿担当 名簿購入申し込み状況報告

### 9月10日 出席者16名 委任5名

議題1. 理事会構成  
理事は、高校2回生以降20名で構成し、副会長は2名とする。小山副会長の任期終了による継続、推薦により萩理事が副会長に選任された。監事に前川富士子氏(高女48回)、田中令子氏(高校4回)を承認。

議題2. 会則見直し  
会則見直し検討委員会を設置し、委員に会長、副会長2名、竹野理事、遠藤理事、村上理事を選任。

議題3. 会則に会報委員会の位置づけ  
会則に位置づけ、活動の規準を明記する。担当理事は、編集担当学年の理事があたる。

議題4. 担当理事報告  
14年度総会報告  
15年度総会は、平成15年6月29日(日)、会場 KKR ホテル 東京、会費8000円を承認。

### 12月3日 出席者19名 委任2名

議題1. 会則改正  
変更は、最少限とする。現状に即した細則を制定する。

1月25日 出席16名  
各担当理事より進捗状況の報告

会則変更試案を検討し、意見を次回理事会までに検討委員会に申し出ることとする。

### 2月28日 出席者16名 委任5名

議題1. 会則改正  
役員の任期を3年とし、再任は2期6年までとする等の改正案を原案通り承認。

議題2. 担当理事報告  
総会担当 会報発送宛名シール準備完了報告  
会報委員会 進捗状況報告  
100周年記念誌 3月中に発送予定

### 平成14年度篁会収支報告書

自：平成14年4月1日 至：平成15年3月31日

| ■収支          |            | ■支出       |            |
|--------------|------------|-----------|------------|
| 科目           | 金額         | 科目        | 金額         |
| 前年度より繰越金     | 10,276,434 | 総会関係費     | 1,645,528  |
| 入会金 新入会員238名 | 1,904,000  | 贈呈記念品費    | 398,475    |
| 年会費          | 1,942,000  | 新入会員名簿制作費 | 75,810     |
| 総会会費         | 1,337,500  | 新名簿発送費    | 135,597    |
| 名簿代金         | 889,200    | 会報発行費     | 3,151,932  |
| 広告収入         | 290,000    | 会議費       | 144,511    |
| 受取利息         | 1,937      | 通信費       | 22,990     |
| 雑収入          | 1,500      | 旅費交通費     | 59,130     |
|              |            | 事務用消耗品費   | 3,740      |
|              |            | 慶弔費       | 128,927    |
|              |            | 雑費        | 133,710    |
|              |            | 事務委託費     | 60,000     |
|              |            | 小計        | 5,960,350  |
| 小計           | 6,366,137  | 次年度繰越金    | 10,682,221 |
| 合計           | 16,642,571 | 合計        | 16,642,571 |

### 平成15年度篁会予算(案)

自：平成15年4月1日 至：平成16年3月31日

| ■収支          |            | ■支出     |            |
|--------------|------------|---------|------------|
| 科目           | 金額         | 科目      | 金額         |
| 前年度より繰越金     | 10,682,221 | 総会関係費   | 1,500,000  |
| 入会金 新入会員240名 | 1,920,000  | 贈呈記念品費  | 400,000    |
| 年会費          | 2,000,000  | 会報発行費   | 2,700,000  |
| 総会会費         | 1,200,000  | 会議費     | 150,000    |
| 名簿代金         | 300,000    | 通信費     | 20,000     |
| 受取利息         | 1,000      | 旅費交通費   | 60,000     |
|              |            | 事務用消耗品費 | 4,000      |
|              |            | 慶弔費     | 130,000    |
|              |            | 事務委託費   | 60,000     |
|              |            | 雑費      | 130,000    |
|              |            | 予備費     | 200,000    |
|              |            | 小計      | 5,354,000  |
| 小計           | 5,421,000  | 次年度繰越金  | 10,749,221 |
| 合計           | 16,103,221 | 合計      | 16,103,221 |

## 100周年事業報告「記念誌」



すでに、ご寄付いただいた方々のお手許には届いていることと存じます。母校創立100周年事業の一つとして、皆様にお約束しておりました記念誌「竹早の100年」が去る3月末にようやく完成の運びとなりました。この記念誌のために、多くの方から貴重な原稿、在職・在校時代の写真や思い出の品々を多数お寄せいただき、さらに有形無形のご協力を賜りましたこと、ここに感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

同窓生、旧職員、現職員の方々をはじめ多数の方がそれぞれの立場で、伝統の重みを実感しつつ母校への熱い思いに駆られて、慣れない編集作業に取り組んで作り上げたものでございます。いまだ、弁解になりますが一生懸命、熱心のあまり、内容、時間ともに当初の予定より大幅に膨らんでしまいました。結果、心ならずも長い間お待たせしましたことお許しいただきたく存じます。

皆様にとって、過去を振り返り、現在を見つめ、未来を考える記念誌であればと願っております。

城戸崎 愛  
記念誌編集委員一同

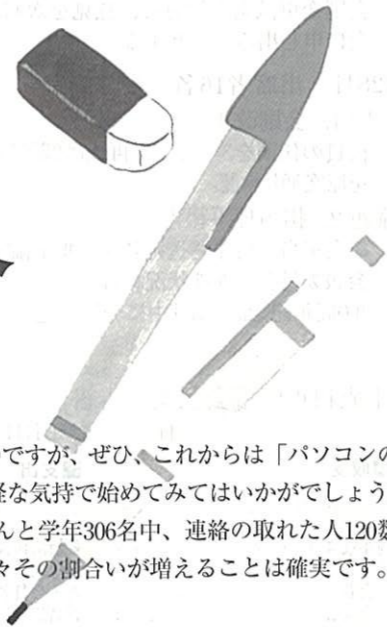
### お知らせ

- 1 篁会は、会員の消息を把握し、総会の案内等交流を図るため会報を毎年一回全員に配布しております。この会報が皆様からの会費でまかなわれていることをご理解のうえ、年会費の納入にご協力くださいますようお願いいたします。15年度会費1000円は添付の郵便振込用紙をご利用ください。
- 2 記念誌の発送には万全を期しておりますが、100周年記念募金にご協力いただいた方でまだお手元に届いていない方は、事務局までお申し出ください。また、以下の方々のご住所が変更になり、記念誌をお届けすることが出来ません。消息をご存知の方からのご一報をお待ちしております。(高校17回宮澤良枝さん、20回網代真理子さん、29回島和也さん、35回松村忠幸さん、35回植村洋司さん、38回宮原千春さん、49回大島弘之さん)
- 3 100周年記念誌は多少の余部があります。ご希望の方は、年会費振込用紙に記念誌希望と明記の上、年会費に加算して、5000円ご送金ください。
- 4 篁会名簿(2002年版)の購入後希望の方は年会費振込用紙に名簿希望と明記の上、年会費に加算して、3800円ご送金ください。
- 5 総会会費8000円は総会会費用の郵便振込用紙をご利用ください。
- 6 生まれ代わった本誌に、ご意見・ご感想を、同封のハガキでお寄せください。



インターネットは  
おもしろい!  
しかも役に立つ!

# 同窓生の ホームページ紹介



世界に広がるインターネット。さらに今後ますます増殖するホームページ（以下HP）。

「コンピューターなんか性に合わない!」「キーボードが……」など拒絶反応を見せる人が多いのですが、ぜひ、これからは「パソコンの一つや二つ!」ぐらいの気持ちで、また、熟年層には、老後の愉しみの一つとして……ぐらいの気軽な気持ちで始めてみてはいかがでしょうか。

昨年同期会をやった、われわれ13回生（還暦を迎えた学年）の名簿を整理してみた所、なんと学年306名中、連絡の取れた人120数名の内68名の人がメールアドレスを持ち、インターネットの世界を楽しんでいます。今後、増々その割合が増えることは確実です。若い学年の人たちのメール人口は、80%以上……といわれています。

また、同期会のHPを持っている13回生と27回生は、HPをフルに活用して同期会の連絡や交流の場として、無くてはならない物になっていて、これらは今後の同期会の在り方の方向として、他の同窓生は参考にすると良いと思われます。

時代の流れで、「簗会でもHPを作ろう!」という提案は数年前からあり、早急にHPを立ち上げたいものです。新宿高校や小石川高校なども立派な同窓会のHPがあり、羨ましく思います。

同窓生の中には、パソコンやHP作成のプロもいるでしょうから、有志で「簗会ホームページ作成・プロジェクト」を作ってなんとか簗会のホームページを作ろうではありませんか!

賛同の方はメールでteruohamano@mac.comまで連絡してください。

今会報では、同期会及び卒業生の中から、各界で活躍されている人たちのホームページを紹介をます。紹介以外にも、卒業生のHPがあるはずですが、調べきれっていません。

ご存知の方は、竹早高校のHPか上記アドレスにご連絡を。それらは、次号にこの企画を連載出来れば良いと思っています。

(高校13回生、浜野輝夫)

## 8回生 Aルーム 山内 昭子さん (伊藤)

「浅野寿司本店」は東京・東池袋で営業している老舗の寿司屋さん。2階はカラオケも楽しめる宴会場になっていて、宴会のご予約もできるので同期会などに利用してみてもいい。

● [http://www.ne.jp/asahi/asanozusi/tarako/top\\_asano.html](http://www.ne.jp/asahi/asanozusi/tarako/top_asano.html)

## 9回生 Eルーム 緒形 拳さん (本名=緒形 明伸)

1958年新国劇入団、辰巳柳太郎に師事。'65年NHK大河ドラマ「太閤記」に出演。3回の日本アカデミー賞受賞。橋山節考等でカンヌ映画祭にも数多く出品。ファン必見の「ハラハチブンメー」というタイトルのHP。

● <http://homepage3.nifty.com/hara8bunme/>

## 10回生 Fルーム 渡辺 節子さん (松本)

「私は好きが高じて旅をビジネスにしてしまったほどの旅行好きです」というベテラン・トラベラー。このところ、飛行機にも船にも乗らず、居ながらにして、時空間を超えて地球を飛び回り、世界中の方とお話できるサイバースペースの旅を楽しんでいるという。

● <http://www.shejapan.com>

## 10回生 Fルーム マッド・アマノさん (本名=天野 正之)

10年間の米国パロディ生活を終えて1988年に帰国。開設2年半で43万ヒット達成の人気政治パロディ・サイト「週刊蜚蜚」を引き継ぎ、ついに「週刊パロディ・タイムズ」がリニューアル登場! 既存のメディアがタブー視するテーマをバツバツ斬り切る。

● [http://www.jetin.com/parody\\_times/navi.htm](http://www.jetin.com/parody_times/navi.htm)

## 12回生 Bルーム 山本 功子さん (米本)

アイランドニットウェアを紹介・販売しております。

● <http://www.rakuten.co.jp/mab/>

## 13回生 Dルーム 西川 太郎さん

2002年10月2日に小泉内閣の下、産業経済副大臣に就任した。国会衆議院議員。保守新党幹事長代理。

● <http://www.bekkoame.ne.jp/ha/nishikawa/>

## 13回生 Eルーム 中田 吉彦さん

イタリアでただ一人の日本人医師として活躍! ローマ中田吉彦医院はローマ市内の西、ヴァチカン市国のそばです。

● <http://www.drnakada.yic.or.jp/index.html>

## 15回生 Bルーム 久保 亘さん

いらっしゃいませ。こちらは中央高原原村にある「ペンションフェローズ」のホームページです。どうぞごゆっくりご覧下さい。サイトをリニューアルしました。

● <http://www.p-fellows.com>

## 16回生 Fルーム 三島 チカコさん (小野)

伊豆高原にある海が一望のアート・グルメ空間の「ギャラリー&カフェ・あそび心」では三島勝の絵画、有田直送の器や香炉の展示販売を常設。レストラン部門ではソースから手作りのランチ、パスタ、カレーが好評です。

● <http://www22.big.or.jp/~eito/hpr/asobi/>

## 23回生 Cルーム 山下 達郎さん

あの魅力的な高音が素晴らしい! 日本を代表するPopsヒットメーカーで、シンガーソングライターの「竹内まりや」さんとはご夫婦です。

● <http://www2u.biglobe.ne.jp/~sugano/web1/tatsuro.htm>

## 24回生 Dルーム 黒田 容子さん (森)

おいしくて素晴らしい天然酵母パンは、食べる人が自ら作ることで、その味わいが出るパンです。この本当の味わいを多くの方に楽しんでもらうために、失敗のないおいしい作り方を紹介いたします。

● <http://www87.sakura.ne.jp/~naturalyeast/main.htm>

## 27回生 Bルーム 村田 佐枝子さん (周)

昭和56年4月から「おかあさんといっしょ」の歌のおねえさんを2年間務める。愛称は「さっこおねえさん」。その後プロの童謡歌手となり、58年9月に、初のソロ・アルバム「さっこおねえさんといっしょ」でレコードデビュー。

● <http://www.aoistudio.co.jp/saeko/>

## 27回生 Fルーム 森田 美愛さん (田中)

森田クリニックで小児科の診療をしております。子どもはとて風邪をひきやすく、特に3歳までの子や集団生活を始めたばかりの子の中には、しょっちゅう病気になる子もいます。病気のことに限らず、育児や心配なことなど何でも相談してください。

● [http://www.morita-clinic.or.jp/index\\_inchou.html](http://www.morita-clinic.or.jp/index_inchou.html)

## 32回生 Aルーム 高橋 治さん

当院は小田急線祖師ヶ谷大蔵駅前、改札より1分にある、矯正歯科の専門医院です。平成12年の開設のまだ新しい診療室です。

● <http://www.otakahashi.com/>

## 36回生 Fルーム 坂本 かおるさん

スポーツ施設や庭の設計、エコビレッジの研究に携わりながら、生け花とフラワーアレンジを学ぶ。小原流生け花教授。花の教室主宰。ボーラ化粧品のカレンダーや、雑誌などの花の写真の他、執筆、植物を使ったディスプレイも手がける。

● <http://www2.newweb.ne.jp/wd/kaorus/>

## ● 竹早高校のホームページ

<http://www2.tky.3web.ne.jp/~takehaya/>

## ● 簗会のホームページ

準備中=ホームページを作ろうという有志募集!  
連絡はメールでteruohamano@mac.com(簗会理事・13回生浜野輝夫)へ

## ● 竹早山荘のホームページ

<http://plaza15.mbn.or.jp/~takehayakai/>

## ● 13回生同期会のホームページ

<http://chance.gaiax.com/home/takehaya>

## ● 27回生同期会のホームページ

<http://home.att.ne.jp/banana/takehaya1975/>

### 〈会報編集室からのご案内〉 広告不掲載について

従来、毎回広告を掲載して参りました。この広告掲載は、会員の活動状況の一端を伺うユスガとしての捨て難い意義が在りました。反面、一部掲載主の方に苦痛を強いている部分無きにも在らずの点、或はまた、全体頁数が増え必要情報掲載余地が少なくなる事、更に、送付発送経費が重量に深く関わっている事、広告掲載料金回収、その他、幾つかの課題も内在しておりました。今回、理事会のご了承も得て、意図的、且つ、試験的に掲載を中止する事に踏み切りました。

一部掲載を予定して居られました方々には、むしろ意外の処置と思われるかは存じますが、編集室の意図をお汲みの上、ご了承下さいますよう、お願い申し上げます。

### 編集後記

思い掛けず引き受けるハメになった会報編集作業が、いよいよ追い込みに入った。昨年10月頃に立ち上がったが、今日は4月21日である。

手弁当で参加して下さる10名前後の会員仲間と、ケンケンガクガク熱心に討論を重ねながらここまで来た。

「特集記事」も、初めての試みであり、テーマもハードで、実際に取り組むかどうかでも議論百出であったが、結局、イキの良いSさんが中心となって取材に取り組み、これを同期の13回生諸氏が熱心にバックアップして下さいました。取材にご協

力下さった多くの方々にも、ここで厚くお礼を申し上げます。

印刷業者に関してもそれなりの紆余曲折があったが、とどの詰まりは、これまで永年お世話頂いたTさんの処から、ご覧の業者に替った。その結果、限られた予算枠を下回る出費で済む見通しが立ち、そのくせ、2色刷りの誌面が実現できた。

あれやこれや、昨年10月頃には、実際、模索の連続であった誌面がカタチとなって現れた時、参加者全員、快哉の声を挙げたものだった。

この誌面をどのように受け留められるか、不安と自負の念が揺れ動いている。どうか、私共の意をお汲み頂き、ごユックリと、ご覧くださいませ。(O.)